

令和2年度学校自己評価システムシート (県立北本高等学校)

| | |
|--------|----------------------------------|
| 目指す学校像 | 生徒一人ひとりの個性を伸ばし、生きる力を地域社会とともに育む学校 |
|--------|----------------------------------|

| | |
|------|--|
| 重点目標 | 1 基礎・基本を重視し、確かな学力の育成及び体力の向上を図る。 2 個に応じた進路指導を充実させ、多様な進路希望の実現を図る。 3 自主自律の精神と規律を重んじる態度を育成し、豊かな心を育む教育活動を推進する。 4 地域連携事業を推進し、生徒の社会性及びコミュニケーション力を育む。 |
|------|--|

| | | |
|-----|---|--------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 (8割以上) |
| | B | 概ね達成 (6割以上) |
| | C | 変化の兆し (4割以上) |
| | D | 不十分 (4割未満) |

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

| | | |
|-----|----------|-----|
| 出席者 | 学校関係者 | 12名 |
| | 生徒 | 8名 |
| | 事務局(教職員) | 7名 |

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| 学校自己評価 | | | | | | |
|--------|--|-----------------|--|--|--|-----------------|
| 年度目標 | | | | 年度評価(2月1日現在) | | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 次年度への課題と改善策 |
| 1 | 臨時休業の長期化に伴い、定期的に課題を指示し、家庭学習を定着させる必要がある。解除後は生活リズムの立て直しを第一とし、各教科の基礎基本を徹底することが急務である。教員の授業力向上については、引き続き取組を継続する。 | 生徒の学習習慣の確立と学力向上 | ①登校指導、巡回指導を実施し、学習環境を整えて学習習慣を確立させる。 ②ICT機器の効果的な活用と工夫により、生徒の学習支援を充実させる。 | ①欠席・遅刻・早退数は減少したか。 ②臨時休業中、通常授業時の双方で効果的にICT機器が活用されたか。 | ①1・2学期における出席不良者数は、昨年61名に対し本年度22名で、36%減少した。 ②臨時休校中、動画配信を行った。 | A |
| | | 教員の授業力向上 | ①校内研修や未来を拓く「学び」プロジェクト等を通じて積極的に授業公開を実施する。 ②学校及び授業アンケートを実施し、生徒の実態把握と教育活動の見直しを行う。 | ①全県対象の授業公開及び校内研修に伴う授業公開は実施されたか。 ②授業を理解できていると回答する生徒は昨年より増加しているか。 | ①授業公開は校内に限定し、教員同士の参観と意見交換を実施した。 ②「授業がわかる」と回答した生徒は昨年の78%から84.5%に増加した。 | B |
| 2 | 臨時休業の延長に伴い、特に3学年の進路指導に大きな支障が出ている。本校は多様な進路希望の生徒がおり、それぞれの進路実現に向けて個に応じた段階的な指導を充実させる必要がある。また1年生や2年生についても段階的指導、個別指導を充実させねばならない。 | 充実した進路情報の提供 | ①進路指導主事と連携して、進学、就職情報を各学年で共有し、生徒・保護者への情報提供、指導を充実させる。 ②生徒に働きかけ、進路資料室の利用を促す。 | ①最新の進路情報が、生徒や保護者に対して迅速かつ十分に提供されたか。 ②各学年において進路活動で進路資料室を利用したか。 | ①各学年の進路指導担当教員が中心となり、速やかに最新の進路情報の提供を行い、進路意識の醸成に繋がった。 ②進路資料室は3学年を中心に利用が見られた。 | A |
| | | 段階的な個別指導の充実 | ①進路指導部と学年との情報交換を密にして、進路説明会等の進路諸行事を段階的かつ計画的に実施する。 ②就職、進学に係る個別指導、面接指導を充実させる。 | ①各学年との情報交換を密にし、進路行事を計画的に実施できたか。 ②進路指導部、学年との連携のもと、指導を充実させられたか。 | ①感染防止対策による行事の見直し等が頻繁にあったが、限られた条件の中で計画、立案、実施をした。 ②就職支援アドバイザーの活用により、3学年の進路指導が一層充実した。 | A |
| 3 | 着実に欠席・遅刻・早退者数は減少傾向にあるものの、まだ十分な状態とは言えない現状がある。今後とも引き続き各学年の遅刻指導等の生活指導面を充実させ、あわせて社会規範意識の向上に向けた指導を徹底していく必要がある。また、部活動については加入率が6割を超えるように継続的に働きかけを行う。 | 生徒指導体制の整備と充実 | ①遅刻指導、整容指導を段階的、継続的かつ組織的にを行い、あわせて交通安全指導や挨拶指導等を充実させる。 ②生徒会を中心に各委員会と連携し、行事の精選と改善を行う。また、部長会等で部活動の実態把握を行い、部活動の活性化に繋げる。 | ①遅刻指導、整容指導、交通安全指導、挨拶指導等を実施したか。 ②昨年度の課題に基づき、行事の精選や改善は行われたか。また、部活動の加入率は上昇したか。 | ①遅刻、整容指導は各学年を中心に取り組み、指導数は減少した。また、本年度は自転車マナーアップ推進校として、鴻巣警察署との連携を強化した。 ②臨時休校に伴い、文化祭や体育祭の実施を工夫した。部活動の加入率は昨年63.5%から68%に上昇した。 | A |
| | | 個に応じた支援の推進と情報共有 | ①教育相談委員を中心として、定期的な巡回支援を実施する。また、各学年と連携して情報の共有を深め、個に応じた支援を充実させる。 ②いじめ防止に向けて情報提供や研修を行い、校内の取り組みを強化する。 | ①巡回支援や個に応じた支援は適切に実施されたか。 ②いじめ防止委員会が中心となり、職員や生徒に啓発的な活動ができたか。 | ①1月現在で、7回の巡回支援を実施した。本年度は、けやき特支伊奈分校、騎西特支のコーディネーターにそれぞれ依頼し、支援を充実させた。 ②一昨年度から引き継ぎのいじめ事案に基づき、啓発的な情報提供を行った。 | A |
| 4 | KISEP(北本市小・中・高相互交流事業)を中心に、地域との連携は概ね計画的に実施されている。しかし、特定の部署や生徒に偏る傾向があり、必ずしも学校全体としての取組とは言えない面がある。したがって、地域連携の取り組みを学校全体として広げるとともに、参加行事について精選をしていく必要がある。また、生徒募集の観点から、学校のPR活動をより効果的に進めていかねばならない。 | 地域・保護者との連携 | ①北本市との年度当初の打合せに基づき、KISEP(北本市小・中・高相互交流事業)を計画的かつ積極的に推進する。 ②教育活動の活性化に向け、保護者との連携を深め、協力体制を充実させる。 | ①北本市と連携し、計画に基づいて実施できたか。 ②保護者の学校行事への参加を促し、教育活動の活性化に繋がることができたか。 | ①KISEPに関連し、中丸小学校との交流事業を実施した。北本市自治会主催の催事については、2度目の緊急事態宣言により中止となった。 ②PTAの役員を中心に、校内清掃(8月)、挨拶運動(10月)、体育祭の警備(10月)を実施した。 | B |
| | | 地域への積極的な働きかけ | ①広報誌の発行やHPの充実等により、本校発の情報発信を積極的に行う。 ②負担軽減の観点から関係諸行事の精選を行い、その上で校内、校外のボランティア活動や地域イベントへの参加を全校生徒に向けて促す。 | ①広報誌は内容を充実させることができたか。また、HPのアクセス数は増加したか。 ②関係諸行事の精選は行ったか。また、ボランティアや地域イベントへの参加者は増加したか。 | ①広報誌「大樹」は発行回数を年2回とし、内容を精選した。「北高便り」は内容を充実させ、3回発行した。HPのアクセス数は、緊急事態宣言下の連絡のため、例年より増加した。 ②本年度は、予定されていた多くの行事が結果的に中止となり、例年通りの実施や地域参加はできなかった。 | B |

| 学校関係者評価 | |
|---|-----------|
| 実施日 | 令和3年2月15日 |
| 学校関係者からの意見・要望・評価等 | |
| <p>今年は「生徒の学習機会」の保障と「教育の質」の確保が特に学校に求められた中で、出席不良者が減少し、アンケートでの「授業がわかる」の回答数が増加したことは非常に素晴らしい。学習指導の改善については、教員相互の授業参観が有効である。全体的に、教員と生徒との関係はうまく構築できているように感じる。細やかな学習指導に安心感を抱いている生徒や保護者が多くいるようで評価できる。</p> <p>年度当初の臨時休業によって、不安の中で始まった進路指導だったが、前年度に迫る成果と言える。全体としては、良い結果が出ている。課題としては、保護者アンケートにもあるが、「1年生のうちからもう少し進路指導に」という点は、非常に重要な視点だと思われる。行事の精選や授業確保等の兼ね合いもあるだろうが、業者を効果的に活用してみてもどうか。高大連携を上手く活用するのよい。進路選択には十分な情報と十分な時間を費やすことが大切だ。</p> <p>遅刻、整容指導、問題行動の指導件数が減少しており、評価できる。ぜひ、継続した指導を望みたい。生徒や保護者のアンケートのコメントからも、教員が生徒指導を細やかに、粘り強く行っている様子が伺える。今年は制約が大きい中での行事が多かったと思われるが、限られた中で様々な工夫を学校側が行い、実施に向けて何度も調整を重ねてきた姿勢が、生徒の満足度の高さと表れていると思われる。そこを感じて。これからは、無意識に前提としてしまっている問題、例えば、「なぜ校則が必要なのか」などのテーマについて生徒同士で行う話し合いの場を設けてはどうだろうか。</p> <p>生徒の社会性やコミュニケーション能力の向上に関して、地域と連携した活動に多くの生徒が関わっていることは、これらも大変に意義あるものと思われる。コロナウイルス感染拡大の余波を受け、活動がかなり制限されたと推察する。地域の小学校、中学校も北本高校に期待をしている。本年度はKISEP事業が十分な取り組みとならず非常に残念であったが、次年度は地域と北本高校との交流を盛んにしたい。特に部活動や行事での交流は生徒が関心を持つと思う。地域と共同で、農業体験やリレー方式の駅伝を考えてみるのも面白いのではないかと。北本高校のイメージアップを地域連携の中でも図っていきたいと考えているが、今まで以上に積極的な活動の実施を北本高校には期待する。</p> | |

